

令和2(2020)年度

地域住民の防災力向上~平時からの取組~

近年、地震や台風、記録的な豪雨により、全国各地で甚大な被害が発生しています。耐震や治水対策といったハード対策は行政の最も重要な施策の一つですが、一旦大災害が発生すると、行政ができることには限界があり、自助と共助が非常に重要です。この研修では、地域住民の防災力向上のために、平時から行政がどのような取組を進めていくか、防災教育も含めて考えます。

開催要領

□程 令和2年5月19日(火)~5月21日(木)(3日間)

場所 全国市町村国際文化研修所 JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分

対象 市区町村等の消防・防災に関わる職員

3日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。

宿泊 研修所宿泊棟(宿泊型研修) ※外泊はできません。

経費 10,200円 左記金額は、研修、宿泊、食事(朝食2回、昼食2回、夕食2回)、資料等にかかる費用です。 なお、事前準備・事前学習および最終日の昼食にかかる費用は含まれておりません。

申込期限 令和2年4月7日(火)まで

※申込後、4月当初の人事異動に伴う受講者の変更については、柔軟に対応します。

申込方法
JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申し込みください。
[Web申込み」が難しい場合は、受講申込書によりFAXでも受け付けています。

※受講申込書はJIAMホームページの書類様式集(https://www.jiam.jp/doc/)に掲載しております。

受講決定 受講の可否については、開講日の約1か月前までに通知をお送りします。 経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。

事前課題 研修受講にあたって、事前課題に取り組んでいただく予定です。詳細は受講決定通知書送付時にお知らせします。

● 問い合わせ先 ●

令和2年 5月 **19**日(水) 11:00~ 入寮受付·昼食

12.30 ~

開講・オリエンテーション

13:00 ~ 15:35

講義 地域における防災体制の構築に向けて ~災害のリスクコミュニケーション戦略~

京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 教授 矢守 克也氏

自然災害から命を守るためには、住民自らが地域の危険箇所を認識し、平時から災害に対する心構えを持つことが重要です。

本研修の基調講義として、住民主導での防災体制構築を促すための、住民と行政との効果的なリスクコミュニケーションのあり方について、各地での実践事例を交えながらお話しいただきます。

15:50 ~ 17:00

事例紹介 「パッケージ化した防災学習」による防災啓発 ~武豊町の取組~

愛知県武豊町 防災ボランティアの会 顧問 鈴木 重久 氏 総務部防災交通課 主事 松山 翔子 氏

防災ボランティアの会による、町内全ての公立保育園から高校まで継続して行う「パッケージ化した防災学習」の実施など、防災力向上のための取組の実例をご紹介いただきます。

17:30 ~

交流会 夕食を兼ねて、ともに学ぶ受講者同士の親睦(情報交換・交流)を深めます。

今和2年 5月 **20**日 (水) 9:00 ~ 12:00

演習 自主防災組織災害対応訓練「イメージTEN」

ふじのくに防災士会 防災士 中村 譲治氏

大地震発生後に予想される地域の状況や自主防災組織本部の運営現場を時系列的に疑似体験する「イメージTEN」について、実際に体験し、その手法を学びます。

13:00 ~ 17:00

演習「災害図上訓練DIG」で防災対策

一般財団法人消防防災科学センター 研究開発部 主任研究員 小松 幸夫 氏

地域の特徴や課題を地図から読み取り、起こりうる災害時の被害をイメージしながら、いざというときの対応や事前対策を考える「災害図上訓練DIG」について、実際に体験し、その手法を学びます。

令和2年

5月 **21**日(未) 9:25 ~ 12:00

講義 地域の防災力向上のために

兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授 阪本 真由美氏

地域の自助・共助の仕組み作りのために大切なことは何か、また市町村職員が地域住民とどう関わり、どのように取り組むべきかについて、地区防災計画などの事例を交えながらお話しいただきます。

12:00 ~ 12:30

ふりかえり、研修アンケート記入、閉講

● 研修内容については、都合により変更になることがありますので、予めご了承ください。なお、研修についての最新情報は、JIAMホームページをご覧ください。